

総合型地域スポーツクラブの効果に関する探索的研究

An Exploratory Research of Effects of Comprehensive Community Sports Club

1K06A146

指導教員 主査 中村好男先生

高橋 光

副査 間野義之先生

【緒言】

我が国では、2000年にスポーツ振興基本計画が策定され、全国の各市区町村において少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブ(=以下、総合型クラブと略す)育成する目標をたて、現在、都道府県で育成状況に差は見られるものの総合型クラブ数は伸びている(文科省,2000)。設立段階、継続段階どちらにおいても総合型クラブの理解のためや、継続意識を高めるために効果を明示することは有益だと考えられる。従って、本研究の目的は様々な事例研究を収集し、現在提唱されている総合型クラブのメリット、効果との比較を行いながら、総合型クラブが地域に対して及ぼす効果の実態を探索的に明らかにすることを目的とした。

【方法】

本稿では、文献データベース CiNii により、「総合型地域スポーツクラブ」をキーワードとし先行研究を検索し学術論文と大学紀要に限定すると、247 篇の論文が該当した。その中から総合型クラブが設立しての効果や変化に関しての測定かつ記述のある論文 13 篇をレビューの対象としまとめた後、さらにその中から効果に関する記述を抽出しコード化したところ、139 の記述が抽出された。類似した点を考慮しながら下位カテゴリをつくり、さらにその下位カテゴリから中位カテゴリを、同様に中位カテゴリから上位カテゴリとなるように整理し、分類した。

【結果】

本研究で選定された論文において、調査方法は質問紙調査が多く、対象者はクラブ代表者やクラブ会員が多く見られた。効果の記述を抽出し分類する作業を行った結果、総合型クラブが地域に与える効果要因として①関係性の充実、②生活の充実、③身体機能の向上、④パーソナリティの発展、⑤外的環境の充実、⑥その他、という6つの上位カテゴリが挙げられた。また、139 の回答項目から 30 の下位カテゴリ、その下位カテゴリより 16 の中位カテゴリが抽出された。

【考察】

本研究において最も抽出頻度が高かった効果は関係性の充実だったことから、最も認識しやすい効果であることが推察された。今回の分類結果と総合型クラブのメリットを比較した結果、医療費の削減に関する効果があり見られなかったが、これは中・長期的な追跡調査を行うことで、より質の高い測定ができると考えられる。また、文科省の効果になかったものとして、パーソナリティの発展と外的環境の充実が見られ、これらは聞き取り調査や自由記述の調査方法による記述に多かった。また、山口(2006)や黒須(2002)が提唱しているスポーツ振興の効果と比較した結果、類似した点は多く見られたが、【外的環境の充実】は先行研究では指摘が無かったことから総合型クラブにおける独特の効果としての可能性が考えられることが明らかとなった。今後は文献調査だけではなく、

実際にインタビュー調査等を用いて、信頼性・妥当性の高い質的研究を行うとともに、将来的に効果を定量的に測定できるような測定方法を検討することが課題である。